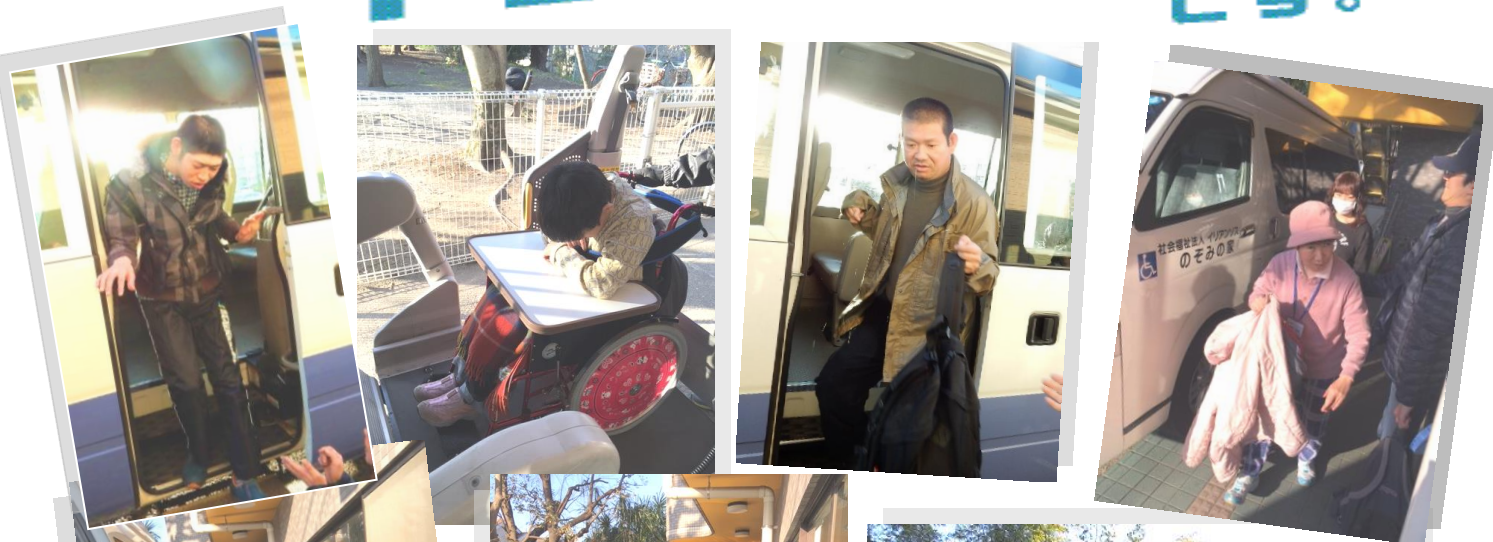


SSU

2016年度

お元気ですか? イリアンソス です。



PAGE

03 特集 送迎いろいろ



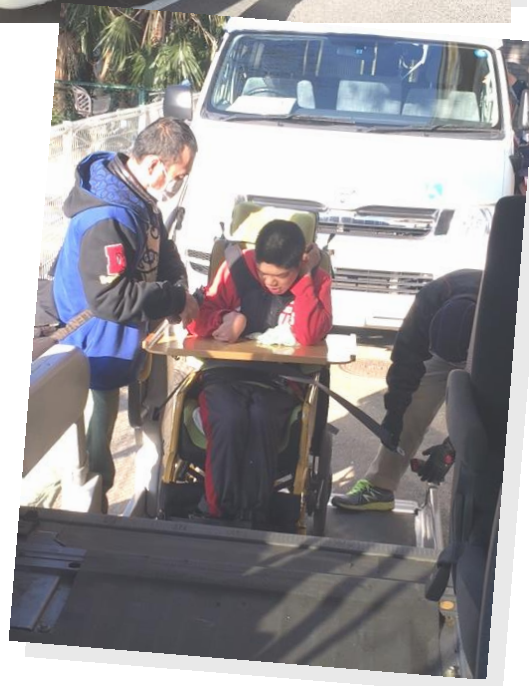
PAGE

02 理事長の散歩道⑮



PAGE

07 がんばれ！イリアンソス⑳



理事長の散歩道



理事長の散歩道 ⑮

社会福祉法人イリアンソス
理事長 磯部光孝

新しい年が明け、3度目の熊本支援に行ってきました。1月7日から1月14日までの8日間です。この熊本支援は、JDF(日本障害フォーラム)の呼びかけで、きょうされんやゼンコロなどから職員を中心として地震のあった5月から活動を継続してきています。主に障害のある人たちの被災調査や生活支援などを行っています。

今回は、わたしは昨年の8月以来5ヶ月ぶりの熊本です。益城町の中心部にも更地が増え、避難所が解消して17ヶ所の仮設住宅など、確実に景色が変わってきています。

そして、被災した一人ひとりが避難生活から日常の暮らしに移行していくなかで、わたしたちJDFが果たす役割も、とても重要になってきていることを実感しました。

◆みんなの積み重ねによる支援が実を結ぶ
「なんとか目処がたったね。」支援員がほっと胸をなでおろしました。昨年12月の32クール、33クールから引き継いだAさん(72歳)の引越越し支援。震災で借家が歪んでしまい、次に地震があった時は家がもたないに依頼が入った支援です。家の中は仏壇、お釈迦様、仏像などが30体ほどあり、お皿や

洋服・健康器具など生活用品も必要以上にありました。引き継ぎでは、家の中は足の踏み場もないほど物で溢れていたそうです。これまでのJDFの支援の方々の積み重ねで徐々に片付けが進んでいったのだと思います。結局3日間支援をして、新しいアパートの整理も一緒にできました。そして、Aさんからはこれまでの人生のことなど色々話をしていたいただき、

「今度また熊本に来たら遊びに来いよ」「戻っても元気でな、3日間本当にありがとう」と支援員に笑顔で言ってくれたそうです。残ったゴミや大物の家具等の移動など、まだやることは残っていますが、後は次のクールにお願いして、わたしたちのクールでのAさんの支援は終了しました。

◆安らぎを取り戻し、笑って暮らしたい
木山仮設団地 地域支え合いセンター(益城町)の熊本YMCAの生活実態・ニーズ調査のお手伝いをさせていただきました。今回は、夫婦で暮らしている方にお話を聞きました。

「気持ち安らぎ 笑って暮らしたい。」
仮設での暮らしは2年と決まっているけれど、その後の生活が何も決まっていけない。そのため先が見えず、夜ぐっすり寝れないため、日に日に体がしんどくなっているそうです。お父さんは、気さくに話して下さりましたが、先が見えないことの大変さが伝わってきました。

被災地要介護認定増

益城町、6月以降倍に
【2016年1月8日西日本新聞1面】

熊本地震で甚大な被害が出た熊本県内の被災地で、高齢者の要介護認定が増加している。震度7に2度見舞われた益城町では2016年6月以降、初めて要介護認定されている人の月別の数が倍増。

御船町や西原村、南阿蘇村も増加傾向にある。避難生活で日々の生活習慣が変化し、心と身体の機能低下につながったのが大きな要因とみられ、東日本大震災の被災地で顕著になった課題が、熊本地震でも同様に浮かび上がっている。

益城町は、約3万3千人の人口の約半数が仮設住宅やみなし仮設での避難生活を強いられた。
町によると、更新を除く新規要介護認定者数は昨年3月が34人だったのに対し、地震後の同6月〜10月は各月63〜79人と約2倍になったとしている。

特集

送迎 いろいろ

～事業所の取り組み～

今回の特集は、日中事業所の送迎についてです。

送迎は障害の重い利用者の方々の大切な移動手段となっていて、雨の日でも車いすでも、日中活動の場に来られるように配慮しています。

送迎を行う上で一番大切なのは「安全」ということです。

日々の安全運転はもちろんのこと、利用者が安心して乗車できる細かな工夫を各事業所でおこなっています。

各事業所の取り組みを紹介します。

送迎の仕事

今回の特集は、日中作業所の送迎業務です。「のぞみの家」「活動センターかなえ」「なかまの家」の日々の送迎の中で、大切にしている事や工夫していることなどを紹介してもらいます。受け入れる側の生活寮の視点も少しだけ紹介します。



のぞみの家

安心に

送迎業務は、家庭やグループホームへ送るだけではなく、利用者の様子を把握することも大事な業務です。

朝の体調や様子を家庭から引き継いだり、のぞみの家での様子を家庭に伝えたりしています。車内では、一人一人の様子を見ながら、添乗スタッフも、時に賑やかに、時に静かにしながら、目的地まで行きます。車の中で、気持ちを切り替える方やグッスリと眠っている方がいて、それぞれの安心した時間を作っています。



▲「まだかな～」

安全に

法人の日中の事業所では、車両・送迎担当者会議が1ヶ月に1回開催されています。そこで、運転マニュアルの作成が検討されたり、車両の点検方法などが議論されたりしています。その中で、福祉車両の技能・保守管理の研修会にも参加して、技能を高めるように努めています。

時間を守りながらも安全第一で運転しています。のぞみの家では、月に2回は車両点検ウィークを設けて、点検をおこなっています。日々の細かなチェックが安全な送迎につながっています。

利用者の声

乗車時間の長い方は1時間ほど乗車しています。長い時間でも楽しいひと時のようです。木下さんに話を聞いてみました。

Q 送迎の時間は、どんなひと時ですか？

A ちよつとホッとできる時間。運転手さんとか、添乗のスタッフと一日の仕事のこととか、最近の話題を楽しく話すこともあります。

Q 車内では、どんなことをしていますか？
A ボーっと外を見たり、ウトウトしたりすることもあります。

Q もつと、こんなふうになったらいいな？
A 今のまま、仕事と家の切り替えの場所で続いてほしい。
車の中にもぎやかで、いつも楽しく乗っています。



▲車の準備中。呼ばれた方から乗り込みます。

単に車で送り届けるだけではなく、安心・安全におこなえるように工夫をたくさんしています。



安全に 活動センターかなえ

かなえでは、ほとんどの利用者さんの送迎を行なっています。送迎は朝は8時40分頃から、帰りは3時30分頃にかなえを出発して皆さんのご自宅や生活している寮に送迎しています。

一人ひとりにあった

送迎の際は基本的にご自宅の前まで行き、送迎車から昇降しています。中には送迎バスが入っていくことが難しい場所であったり、マンションにお住いの方もいらっしゃいます。そういった方は、送迎場所までお迎えに来ていただく方もいらっしゃいますが、ご家族が仕事などで不在の方もいますので、添乗者のご自宅まで送り迎えに行く事もあります。中には本人がご自宅の鍵を管理している方もいるため、添乗者がしっかりと鍵をかけたかどうかの確認まで行い、送迎車まで一緒に行きまします。ご本人にとっても、御家族の方にとっても安心して通所する事ができるよう心がけています。

年度初めには、送迎車ごとの時刻表の作成をしています。各ご家庭を回り、時間通りに運行する事ができるのか、どのルートを通っ

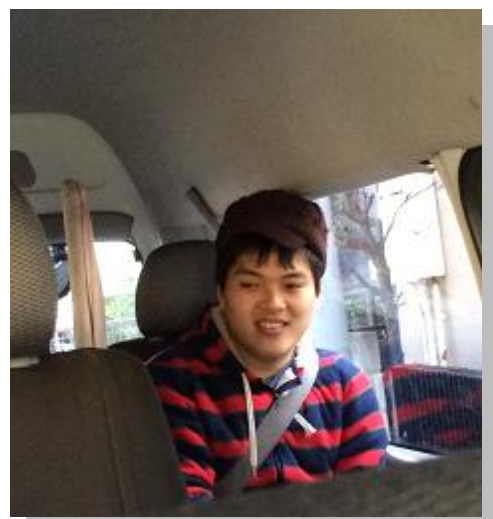
たらいいのかなどをイメージしながら作成にあたります。送迎車のなかには、委託の運転手さんもいるので、あらかじめきちんとしたルート図を作成し、その地図通りのルートで運行するようにしています。そのようにしておくことで、時間ごとに今どこにいるのか把握しやすくなります。また、もし送迎中に事故が発生した場合でも、場所の把握ができ対処しやすくなります。



「さあ、出発！」



一日、がんばりました！！



「わくわく！！」



なかまの家の家

連携して

なかまの家では、マイクロバス、ハイエース、キャラバン(たんぼぼ号)の3台の車を中心に送迎を行っています。マイクロバスには主に生活寮を利用されている方が乗っています。送迎を活動センターかなえと協力して行っています。その際、活動センターかなえと送迎の体制をファックスで確認しあい送迎先のミスが無いようにしています。添乗のスタッフには施設の携帯電話を所持してもらい、何かあった場合施設とすぐに連絡が取れるようにし、安全に運行できるようにしています。

安心して

また、見通しが持てないと次の行動に移れない方もいるので、帰りの会の時に乗る車の確認をスタッフ、利用者で行っています。「○○さんはバスで寮に帰ります。」「○○さんは、ガイヘルさんがお迎えに来ます。」など、特に通常の送迎と変更のある人には丁寧に確認を伝えます。この時スタッフも一緒に確認をして、送り先を間違えないように利用者が安心して通所できるようにしています。

それぞれのようです

帰りの会が終わると、利用者のみなさんはまだかと窓際に椅子を持っていき座って待っています。送迎車が迎えに来ると、嬉しそうな表情で送迎車に乗り込んでいきます。



生活寮

生活寮の入居者さんは、法人内外の施設へ送迎車で通勤しています。曜日やユニットによって送迎時間が違いますが、毎日休まずです。

朝、寮内ではリラククスした雰囲気でも過ごしている皆さん。送迎車が来るとなんだか顔がきりつとするように思います。きつと、仕事モードに切りかえているのでしようね。そのため、夕方は1日仕事を頑張った、という素晴らしい達成感の中でそれぞれにほっと一息ついた表情を見せながら帰寮します。笑顔の方がいれば、怒った顔をしている方もいます。送迎車の中も、穏やかな時間が流れているのだらうと思います。

「いってらっしゃい」と見送る時、寮にいるより嬉しそうな顔をしているので、ちよっと寂しい気分になります(笑)

送迎車に乗る時と降りる時、運転手さん、添乗さんが優しい声かけをしているので、そういう空気感がより良い表情を作り出しているのでしょう。



連載 がんばれ イリアンソス! シリーズ 20

『健康で明るい活動を!』

作業療法士 今井亮貴 さん

活動センターかなえとなかまの家に毎月一度、リハビリのアドバイスをいただいている作業療法士の今井さんを紹介いたします。

○作業療法士の今井亮貴(いまい よしあき)さんの挨拶から

(今井さん)
いつもお世話になっていきます。早いもので、一年が経ちました。作業療法士の今井といます。出身は岐阜県の飛騨地方です。

○病院勤めと伺っていますが、施設の利用者さんとの様子はいかがですか。

(今井さん)
病院でのリハビリを受けられるいわゆる患者さんは、成長過程で一度獲得した機能を何らかの原因で失った方が多いです。ですのリハビリの視点は、「再獲得」となりやすいです。一方で利用者さんは非定型発達の方々ですので、機能の再獲得というよりは、「適応」という視点を持っています。

○現場に入り心がけていることはありますか。

(今井さん)

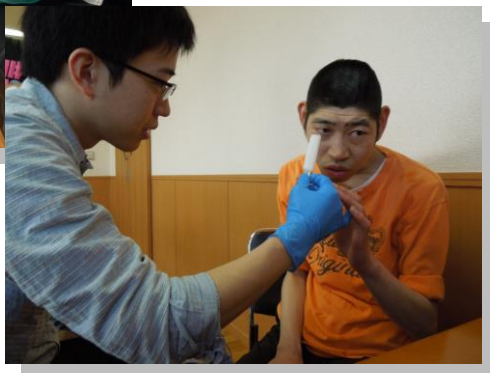
第一に利用者の方が僕に適応するか考えます。次に、目の前で起きている現象の理由を考えることです。職業柄なのか、教科書や資料を参考にして根拠のある理由を探りますが「なぜ、この人はこの行動をしたのか」「なぜ、こんな動き方をするのか」必ず理由があるという気持ちを持つようにしています。

○どんなところにやりがいを感じていますか。

(今井さん)

先に述べた理由がなんとなくわかったときに感じます。理由がわかると次に繋がります。あとは相手の感情に触れたときです。利用者さんとの乾杯も好きです。いつも至らないことばかりで申し訳ありませんが大変勉強になります。

今井さんは、専門的な知識の中から、私たちが思いつかないアイデアで利用者さんにアプローチしてくださいます。しかも、障害のある方一人一人に寄り添いながら温かく接していただいています。これからもよろしくお願いいたします。



法人行事

『リサイクル久留店』

のぞみの家の定期開催のバザーです。

日時・2017年4月13日(木)・27日(木)

10時～14時(雨天中止・気温によって中止、短縮)
場所・滝山団地センター前広場

ご寄付をいただきました(12月末まで)

法人各施設にご寄付をいただいております。誠にありがとうございます。誠にありがとうございました。いただいたご寄付は法人各施設の充実や、将来構想の資金として大切に使用させていただきます。

藤田 祐子様

ありがとうございます。

編集後記

2020年の東京オリンピックに向けて準備が進んでいるようです。同時にパラリンピックへの注目も高まっています。メディアへの露出も多くなっているように思います。これを機に街も心もバリアフリー化が進んでいくことを願います。何よりも一過性や外国へのアピールではなく、継続したものになっていけるように。

のぞみの家 吉田 遊佑

表紙の写真／

送迎色々。

毎日、帰りは慌ただしいです。

《 発行 》

特定非営利法人 障害者団体定期刊行物協会

〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3-1-17

ヴェルドナーラ祖師谷 102 号室

Tel 03-6277-9611 Fax 03-6277-9555

《 企画、編集 》

社会福祉法人 イリアンソス

〒203-0043 東京都東久留米市下里 2-7-18

Tel 042-473-9027 Fax 042-473-9036

《 編集委員会 》

磯部光孝・多田由美・廣智章

秋元沙織・橋本大介・吉田遊佑

吉田貴吉・矢島正樹

ホームページからはカラーで

ご覧いただけます

イリアンソス



定価 一〇〇

社会福祉法人イリアンソス

●のぞみの家

東久留米市下里 2-7-18

042-473-9027

042-473-9036 (F)

nozomi@iriansos.or.jp

●活動センターかなえ

東久留米市南沢 2-20-51

042-452-6406

042-452-6415 (F)

kanae@iriansos.or.jp

●なかまの家

東久留米市中央町 2-1-47

042-472-7130

042-444-3722 (F)

nakama@iriansos.or.jp

●生活寮「うみ」「そら」

東久留米市下里 4-2-7

042-476-3400 (F兼)

sora@iriansos.or.jp

●生活寮「にじ」「かぜ」

東久留米市下里 5-10-10

042-420-9943

kaze@iriansos.or.jp

●このみ

東久留米市幸町 3-8-23

042-473-9667